

(6) 2017年(平成29年) 3月2日(木曜日)

ため息がでるような絵を描くことができる人。人々を魅了する曲を弾くことができる人。私たちはそんな人たちの才能に驚嘆します。この才能について神戸女学院大学名誉教授である内田樹(たつる)氏は「才能とは贈り物である」と書き、その才能は一時的に私たちに託されているもので、氏がこれまで見聞きしてきたことによると、才能を世のため、人のために使っていると、それはだんだんとその人の血肉となり、やがてそれは揺らぐことのない、その人の本性の一部となるといいます。

しかし、もし、それを自己利益のために用いるのなら、その才能はゆっくりと目減り

していき、威信や名声、さらには貨幣などに交換されていくと、やがてそれはその人自身から疎遠となっていくというのです。これらのことが長く生きてきてよく分かっています。大切に土に埋めておくよう

南加キリスト教教会連合

能ある鷹は...

大倉 信

たというのです。

イエス・キリストは有名な「タラントの譬(たとえ)」を語っていますが、そのたとえが言っている「タラント」とは内田氏が言うところの

なものではなく、それを用いることを神が私たちに望まれていると語られています。

実際に自分にゆだねられている賜物を用いた者に対して聖書は『良い忠実な僕よ、よ

くやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう』(マタイ25章21節)という称赞の言葉を語っています。

世のために、人のために惜しみなく私たちが用いていくのなら、神様は私たちをさらに祝福してください。興味深いことに内田氏は「その才能の『使いっぷり』を見て、次の贈り物のスケールとクオリティーが決まる」と書いています。出し惜しみせずに、神様が私たちに与えてくださっているものを大いに用いていきましょう。

『あなたがたは、それぞれ賜物をいただいたているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人としてそれをお互のために役立てるべきである』(4章10節)と書かれており、私たちは与えられている賜物をしつかりと管理することが求められており、さらにその与えられている賜物は互いのために役立てて用いるべきだと勧められています。

「能ある鷹は爪を隠す」といいますが、「隠しつばなし」というのも聖書の教えではないように思いますが、いかがでしょうか。(Taisuru) 参考 「内田樹の研究室」より

(サンディエゴ日本人教会 牧師)